**古典学習陶冶会会員のための経済・経営講座　第8回「環境整備（2）」**

**古典学習陶冶会会長補佐　志水達也税理士事務所所長　志水達也**

では、社員の心に革命をおこす環境整備とは何なのか。それは「５Ｓ」活動に他なりません。「５Ｓ」とは整理・整頓・清潔・清掃・躾のローマ字表記の「Ｓ」に由来しています。前出『掃除と経営』によれば、その起源は不明確で、企業によって、整理・整頓の２つで「２Ｓ」としたり、食品業界では洗浄・殺菌を加えて「７Ｓ」としたりと様々です。また、それぞれをどのように定義するかも、企業によって異なることがあります。因みに私は次のように定義しています。

整理とは、モノの名前を決め、置き場所を決め、表示すること。整頓とは、モノを決められた場所に、正しい姿で置くこと。清潔とは、決めたことは守り、守れないことは決めないこと。清掃とは、要るモノは捨てない、要らないモノは捨てること。このような具合です。そして、最後の躾については、次の物語を使って説明します。

「釈尊の弟子に、周梨槃特（シュリハンドク）という者がおりました。覚えるのが苦手で、一説には、自分の名前さえ忘れたため名札を首から下げていたといわれます。『もう僕にはわからない。僕がここにいてもしょうがない』。そういって悩んでいる彼に、釈尊は、『きれいにしましょう（塵を払わん、垢を除かん）』と教えました。彼は、ひたすら何年も庭掃除に励みました。やがて、彼は「塵とは何か」、「垢とは何か」と考えるようになり、終に、自分の外にある塵や垢ではなく、自分の心の内にある塵や垢、つまり、欲望、怒り、愚痴、迷い、逡巡を取り除くことが、心の掃除に通じることを悟りました。」

つまり、掃除という凡事を徹底することによって、心の掃除という『悟り』を得ることが出来るようになる。そうすると、『僕がここにいてもしょうがない』という不安が消え、大きな安心感を得ることが出来るのです。一休禅師はこの心境を次のように歌っています。

有漏地(路)より　無漏路へ帰る一休み　雨降らば降れ　風吹かば吹け

解説しますと、仏教では心に塵や垢がある状態を有漏（うろ）といい、無い状態を無漏といいます。有漏は私たちがよく使う「ウロウロする」の語源となっています。「整理・整頓・清潔・清掃」を、身に沁み付くまで徹底することを「躾」といいます。つまり、「整理・整頓・清潔・清掃」という凡事を徹底することによって、それらが「躾」となるのです。そうすると、「雨降らば降れ　風吹かば吹け」という大安心を得られ、腹がすわり、「ウロウロ」しなくなるのです。

ここで、もう一つのエピソードを紹介します。ある年、中学陸上全国大会砲丸投げで優勝した女子生徒がインタビューを受けました。

「・・逆転で自己ベストでしたね。どうして、あんなすごいことができたのでしょうか？」。少女は「私は皿洗いとクラブを毎日、休みませんでした。」と答えた。（原田隆史『カリスマ体育教師の常勝教育』日経ＢＰ）

彼女がそう答えた瞬間に周りにいた大人達は、わけがわからないといった表情になったそうです。しかし、これは彼女が皿洗いという環境整備を何年間も愚直に続けた結果、それが躾となり、大安心を得て、大会に臨むことができた。だからこそ、実力を発揮できて優勝できたということを伝えているのです。

以上が「５Ｓ」における「躾」の意義ですが、これは、「経営理念」にもいえることです。つまり、経営理念は、頭で理解しているだけではダメで、「躾」になるまで身に沁み付いていなければ、本当に「大安心」は得られないのです。陶冶会会員が「躾」られた「経営理念」で、「大安心」の経営ができるようになることを祈念してやみません。